

令和7年度 松本市自殺予防対策推進協議会 議事録概要

1 日時

令和7年7月30日（水） 午後1時30分から3時15分まで

2 会場

松本市大手公民館大会議室

3 出席者

(1) 委員

鷲塚委員、上條委員、吉澤委員、小林委員、鶴巻委員、百瀬氏（二村委員代理）、林委員、西村委員、土橋委員、鎌倉委員、梅本氏（湯澤委員代理）、伊藤委員、下里委員、岩垂委員、瀧澤委員、島津委員、赤羽委員、大輪委員、北野委員、石川委員、和田委員、加藤委員

(2) 自殺予防対策庁内連絡会議関係課

松本市保健所 小松保健所長、地域づくり支援課 上條課長、市民相談課 野口課長、人事課 塚田課長、こども育成課 小淵課長、こども福祉課 三代澤課長、若者参画課 丸山係長、商工課労働・雇用担当 林課長、学校教育課有賀指導主事、生涯学習課 廣田課長、福祉政策課 豊原課長、障がい福祉課 西村課長、高齢福祉課福祉担当 勝家課長

(3) 事務局

保健予防課 百瀬課長、佐藤、健康づくり課 加藤課長、内山、渡井、秋元、カ石、片桐、宮田

4 欠席者

(1) 委員

石井委員、小林委員、深澤委員、横井委員

(2) オブザーバー 長野県精神保健福祉センター 竹内氏

(3) 自殺予防対策庁内連絡会議関係課

総合戦略室、秘書広報室、人権共生課、生活福祉課

5 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 委嘱状交付

(4) 自己紹介

(5) 役員選出

会長：信州大学医学部精神医学教室教授 鷲塚 伸介委員

副会長：長野県精神保健福祉士協会 鶴巻 雄介委員

(6) 議事

ア 報告事項

(ア) 第3期自殺予防対策推進計画の概要

(イ) 自殺の現状と自殺予防専用相談実績報告

(ウ) 自殺予防対策関連事業報告

イ 協議事項

(ア) 令和7年度松本市自殺予防対策事業について

(イ) 20歳代(若者)への自殺予防対策について

(7) その他

6 議事要旨

(1) 報告事項 第3期自殺予防対策推進計画の概要について

(事務局)

資料1に基づき説明

(会長)

自殺死亡率ですが、松本市の平成27年の数字が18.1、令和6年16.1、目標値ですが令和9年12.2、これは人口10万人当たりの自殺者数ということでございます。それから、長野県の非常に大きな課題は、若年層の自殺が非常に多いということで、全国のワーストを記録した年、あるいはワースト第2位というようなことを記録した年がございます。長野県の大変深刻な問題になっておりまして、松本市でもこれは例外ではないということを申し添えておきたいと思っております。

(2) 報告事項 自殺の現状と自殺予防専用相談実績報告について

(事務局)

資料2に基づき説明

(会長)

若者の自殺が高いということは今も繰り返し強調されておりますが、その他の点で言うならば、男女比較した場合、男性特に働き盛りの40～50代は女性の3倍から4倍自殺しています。

自殺の最大のリスク因子というのは、自殺未遂歴があることなので、自殺未遂があるということは、やはり自殺について気をつけなければいけないということになるのかと思います。

それからお仕事をお持ちでない方の自殺が、常に半数を超えているということも注目しなければいけないのではないかと思います。

(3) 報告事項 自殺予防対策関連事業報告

ア 松本市自殺予防対策推進協議会各団体

(各団体)

各団体から資料3について報告

(会長)

簡単に感想という形で述べさせていただきます。

松本広域消防局様から搬送の具体的な数字を上げていただいたこと、それから、労働基準監督署様から労災の件数を具体的に上げていただいたということで、搬送や不搬送になったケースを教えてくださいました。

不搬送については、もう既に亡くなっていたということだと思います。その時に救急車を呼ぶために必ず誰かがいるということで、もしかしたら既に亡く

なっている方を目の前にしながら電話をかけている、自殺された方を目の前で
見ている、どんな気持ちでいるのか、その方達のケアをどうするかということ
が一つ、これから大きな課題になっていくのかと思います。

また労災について言うならば、経済的な柱を失うことが多いので、労災の支
給対象になったとしても、その後生活に困ってくるのが予想される、そうい
った方々へどのような手立てを差し伸べていくのか、自殺予防という観点から
はちょっと外れるかもしれませんが、これからまた大きな課題になると
思いました。

それから町会連合会の方から、町会として成り立たなくなっている、孤立の
問題、繋がりが減ってきているという話があったかと思います。

死にたいと思っている方は、実は決して少なくはなく、かなりの方が実はそ
う考えています。ただ実際に自殺行動に走るかということ、実際には何が原因な
のかということをお我々の領域でそういう研究があるのですが、一つは孤立感で
す。

これはこどもから大人までみんな一緒なことで、学校でもみんなワイワイ
やっているように見えるが、実はみんなと少しずれていてうまく馴染めないお
子さんであるとか、あるいは高齢者の方の場合、3世代同居家族で一見みんな
で仲良くやっているかのようだが、他の家族からとり残されてお年寄りが家
の中でポツンとしているといった1人暮らしよりも一層孤独感を感じることはあ
り得るわけです。

もう一つ自殺行動に走る原因は、お荷物になっていると感じたときに、自殺
行動に走るということがあります。社会のお荷物になっている、会社のお荷物
になっている、学校のお荷物になっているとは思わないかもしれないけれど、
お父さんお母さんに迷惑をかけていると思ったら自殺するかもしれないお子
さん。孤立感とお荷物感をどのようにやわらげていくかということが私達の一つ
の課題になっていることを、皆様にも共有させていただこうと思います。

イ 松本市庁内連絡会議各課

(庁内各関係課)

庁内関係各課より資料4について報告

(4) 協議事項 令和7年度松本市自殺予防対策事業について

(事務局)

資料5に基づき説明

(島津委員)

検索連動型広告ですが、関連窓口が表示されるということですが、リストだ
けが出るのでは、クリックしてその先に入らないというか、そこに相談してみよ
うかなという工夫などはあるのですか。その先どのようになっているかという
のが知りたいです。

(事務局)

検索連動型システムを使いまして、例えば「死にたい」、「いじめ」等のワードを検索すると、それに関連する相談窓口の案内が出るようになっていきます。例えば松本市のいのちのきずなですとか、そこから更にリンク先に入っていただくようになります。

(保健所長)

今のご質問は、その先の表示に至るまでに工夫があるかということなので、今後検討していきたいと思います。クリックしやすいようにということですね。

(島津委員)

今のクリック率が9.3%とかなり高いのだけれど、そこで終わってしまうというか。その先へ、これは質問というよりも、本当に答えがないので、みんな探っていくしかないですね。

(事務局)

労働問題ですとか生活困窮といった、そういった窓口もご案内しています。

松本市のホームページ誘導率とあって、どこから検索してそのホームページを閲覧したかという分析によりますと、この検索連動型を始めて、労政課、まいサポ等、そういったページへこの検索連動からつながったという割合は少し上がってはいますので、検索連動型広告により、さまざまな相談先へのご案内はできているのかと考えております。

ただ、所長、島津委員さんも仰ってくださったように、まだ工夫は必要と思います。

イ 20歳代(若者)への自殺予防対策について

(会長)

松本市では20歳代の自殺死亡率が男女ともに高い傾向にありますが、若者の現状と支援策について情報提供やご意見があれば、お願いしたいと思っております。何か新しいご提案があれば、ぜひ承りたいと思います。

これは県の会議でも必ず話題に上がって、毎年問題になっているのですが、なかなか実行策がですね、結果論から言えば数字が下がってこないという状況ではございますので、皆さんも問題意識として持っていただけて考えていただき、ぜひ次回等何かの折にご意見を頂戴できればと思います。

(5) その他

事務局から自殺予防相談窓口啓発用ポケットティッシュ等のご案内